

おいしいだ

# 議会だより

No. 140

2014/ 4 .25

山形県大石田町ホームページ  
http://www.town.oishida.yamagata.jp

発行／山形県大石田町議会

発行責任者／議長 星川 久

編集／広報常任委員会・〒99-4112 大石田町緑町一番地

☎0237(35)2111

◆印刷 (有)印刷文化堂



笑顔でスタート1年生(北小入学式)

## 第1回定例会

3/4~13

## 第1回臨時会

1/28

## 第2回臨時会

3/25

**複合施設** 建設場所は桂桜公園 ..... P2

新年度予算 福祉関連予算は全体の47% P4

町の考えを問う 5議員が一般質問 P12

復旧は来年3月頃の見込み 町道白鷺線 P17

議会傍聴記 意思決定機関としての自覚を P20

# 議会傍聴記

## 意思決定機関としての自覚を

仙台市若林区  
若松 哲夫

あるきっかけで2年前から、地域間交流をお手伝いする機会に恵まれ、この大石田町を知った。初訪問の際、ある方から「観光と交流で町を活性化したい」との説明をもらった。新町政のスタートに伴い、多数の方を紹介いただき、その意志の強さに感銘を受けた記憶がある。

この2年余、町内のさまざまな人とさまざまな会話を交わし、各人の多様な考えが反映されにくくなっているのでは、との疑問を覚えた。議会を傍聴しようと考えたのもこんな動機からだった。3回の傍聴で、質問の趣旨と答弁がかみ合わない場面が多い印象を受けた。町執行部人事についての質疑がまさに象徴的だった。さらに、ふるさと納税に関する活発に見える議論もそんな時間に浪費する必要はなかったように思う。定住促進の質問は町の将来の姿を深刻に現していた。

地方行政の課題解決に残された時間はこの町に限らず、そう多くない。議員が質問の時間を余らせるのは恥ずべきこと。一方で答弁側には趣旨を的確に把握した答弁を求めたい。議員の質問は町民の声であり、議会は町の意思決定機関であると改めて自覚し、意義と実現性を踏まえた議論をしてほしい。そのために、答弁の時間をカウントしない、片道方式の採用を提言したい。古里の繁栄が続くような緊張感ある議会運営を切に望む。

## 議会を傍聴しませんか

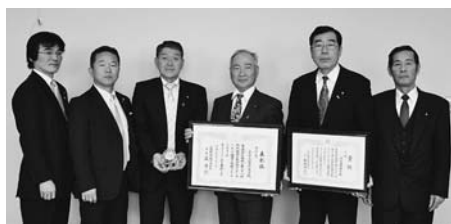
◆次回の定例会は  
**6月6日(金)~  
6月11日(水)**  
までの予定です。

お気軽においでください。  
(議場は役場3階です)

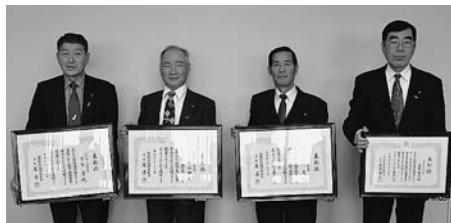
お問い合わせ先  
大石田町議会事務局  
電話 35-2111(内線312) FAX 35-2118

◆広報常任委員会  
委員長 小林 征雄  
副委員長 村形 昌一  
委員 村岡 藤弥  
委員 遠藤 宏司  
委員 芳賀 清

みなさんが手にしているこの議会だよりはレベルが高いのですと言った驚かれるでしょうか。この度、議会のコンクールで県では11年ぶり全国では初めての表彰となりました。



◆全国町村議会広報コンクール表彰  
奨励賞 ■ おおいだ議会だより(No.136)  
◆山形県町村議会広報コンクール表彰  
入選 おおいだ議会だより(No.137)



◆全国町村議会議長会自治功労者表彰  
左から 芳賀 清・小林征雄・星川 久  
◆山形県町村議会議長会自治功労者表彰  
右から 遠藤宏司

議会だより4議員が表彰を受ける

議会だよりが全国及び山形県コンクールでそれぞれ表彰を受けました。また、地域の振興発展に寄与した功績が認められ、3議員が全国町村議会議長会表彰を、1議員が山形県町村議会議長会表彰を受けました。

編集後記